

2021年2月臨時運営委員会議事録・・・オンライン会議

2月28日(日)	10:00~12:00(オンライン会議)	議長:大澤委員	書記:大出委員
<p>運営委員: ○石井、○今村、○大澤、○大出、○小坂、○高橋、○竹内、○土屋、 ○豊永、○永井</p> <p>監事: ○島村、○村尾 (○:出席 △:委任 ×:欠席)</p>			
<p>協議事項: アンケート結果のうち、第30回通常総会議案書に関わる下記の項目について討議した。</p>			
<p>1) 会員の高齢化・減少化対策について(資料1、資料6参照) じゃお本部が主体となって行う媒体を使った広報活動はコスト的に難しいので、会員募集は現状の地域での勧誘活動や会員の口コミによる方法を継続するという提案が承認された。その活動をサポートする施策として、以下の項目が提案されたが、実施の可否については地域じゃおでの意見聴取を踏まえて次回運営委員会で決定する。</p> <p>① 新規入会者の入会初年度の会費は無料にする。 ② 会員の紹介による入会者が次年度以降継続入会した場合は、紹介者のその年会費は半額にする。2名以上紹介した場合はその年度は免除する。 ③ この施策を2021年度から5年間継続する。(5年間での費用総額約40万円)</p>			
<p>2) 本部の役割・地域じゃおとの関係について(資料1参照) 現状通り、次の項目のじゃお本部(運営委員会)の役割は、会の運営において必要な役割として継続することが了解された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 方針の提案と決定(総会)、対外窓口、広報活動(HP) ◆ 地域じゃお問の緩やかな統合の象徴および調整機能 ◆ 事務局機能(会員管理・会費徴収・会計・業務監査) ◆ 会員横断的なイベントやコミュニケーション(サロン、ニュース) <p>サロンとニュースについては、今後どのような組織体制で運営していくか、検討することになった。</p>			
<p>3) 第30回通常総会の開催プロセスについて(資料2参照) 通常開催、郵便による議決権行使、オンライン開催のいずれかが考えられるが、3月の運営委員会で最終決定する。</p>			
<p>4) 運営委員会の実施方法について(資料3参照) コロナ禍が収束した後も、原則としてオンライン開催とするが、必要に応じ対面型の会議を行うこともある。会議には委員・監事の他、会員のオブザーバー(会議の傍聴)としての参加を認めることとした。</p>			
<p>5) じゃおニュースの改善提案について(資料4参照) じゃおニュースの発行を知らせるメールにその内容目次と簡単な紹介を書き込み、閲覧者を増やす工夫をする。 じゃおニュースの内容や原稿募集方法等については今後検討する。以下に運営委員会の意見を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域のメンバーも含めた形で編集グループを作り、そこで内容やテーマ、編集方法などを検討すれば良いのではないか。 ◆ じゃおサロン関係記事、運営委員会だよりをホームページに移行する場合は非Eグループ会員への配慮が必要である。 ◆ じゃおサロン関係記事、運営委員会だよりをホームページに移行することには反対。じゃおニュースとして皆が読みやすい形で提供されているのが良い。 ◆ じゃおニュースの記事は当初、自由投稿制であったが記事が集まらないという問題に直面した歴史がある。自由投稿制に戻すと再び記事が集まらない問題が生まれる可能性がある。 			

- ◆ 「会員だより」は活動に参加していない会員（約半数）の近況を知らせる手段。順番制での投稿を募ることで会員との接点を設ける手段になっている。
- ◆ 「会員だより」を順番制にするときには、抵抗が少なくなるよう年間の予定を告知するとか、頻繁な連絡を取るなどの活動も必要。
- ◆ 現在の順番制を変える必要はない。テーマを決めてもかえって書きにくくなると思う。
- ◆ チームを作って、そこでやり方を検討すれば良いのではないか。
- ◆ 例えば、これまでやってこなかったインタビュー形式の記事執筆も考えられる。「書きたくない」と言っている人に「順番ですから書いてください」とお願いするのは無理がある
- ◆ 順番制とテーマ制を併用して記事を募集すれば記事は集まるのではないか。
- ◆ じゃおニュースを発行する組織と中身のテーマをどうするか2つの課題がある。

6) 30周年記念行事について（資料5参照）

記念講演や大冊の記念誌の発行は行わないが、じゃおニュースの紙面を割き、20周年記念誌の資料編の続きを数号に分けて掲載することになった。

7) じゃおサロンの実施方法について（資料5参照）

じゃおサロンは、来年度はオンラインで6回程度開催する予算を確保することになった。サロンの運営方法は今後検討する。

8) 記念行事に予定していた繰越金の扱いについて（資料7参照）

各地域じゃおに分配して欲しいという意見がほぼ半数を占めたので、4月1日現在の会員数に応じて1人当たり1,500円を各地域に分配する方向で総会に諮ることになった。

9) ホームページの活用について（資料8参照）

ホームページの制作・管理・運営は地域ごとに地域に合った形で行う。会員募集、他団体との交流等に活用する。ホームページサークルでは勉強会の実施を通じて制作能力を高める努力を今後も行っていく。との報告があった。

10) オンライン方式の活用について（資料9参照）

コロナ禍ではやむを得ず会議や活動においてオンライン方式を活用する。パソコンやスマホを持たない会員（非Eグループ会員）に対しては、重要事項はじゃおニュースと同時に書面で情報を届け、重要な決議事項については事前に書面あるいはその他の方法で意見聴取を行うということを担保して、オンライン化を進めて行く。

以上